

# 広島大学学術情報リポジトリ

## Hiroshima University Institutional Repository

Title	英語に於ける形容詞の比較変化形式について <修士論文及び卒論要旨>
Author(s)	宮本, 美枝子
Citation	広大言語 , 8 : 53 - 54
Issue Date	1968-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046297">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046297</a>
Right	
Relation	



のと同じであること；等に触れている。

### §3 おわりに

雑誌 Language 40巻1号(1964)に本書の書評がアメリカの Cornell 大学の Hall, Jr, R.A.氏によって為されている。氏は、本書の欠点を次のように云っている。

The major shortcoming of De Mauro's book lies, however, not in its content, but in its organization. The division into three sections..... main text, extensive notes, and even more extensive excursions..... renders reading quite difficult.

即ち、本書の最大の欠点は、構成がまずいために読みづらい点にある。私も全く同感である。また、著者は言語哲学の専門家なので、抽象的な内容が多くて面白さに欠けるのではないかと思っていたが、数字や用例も多く、具体性あふれるものであったのには救われる。

とにかく、本文第3章の、社会変化が言語に及ぼす影響の分析の項は面白いので、一読をお勧めしたい。

## 「英語に於ける形容詞の 比較変化形式について」

宮 本 美 枝 子

小論は英語に於ける形容詞の二つの比較変化形式、すなわち -er, -est によるものと、more, most によるもの、を取りあげた。

比較形式について文法書に書かれているルールは断固として守られているわけではなく二つの用式の間には fluctuation があるということに興味を持った。そして実際に、その fluctuation はどれ程あるものか、また fluctuation が起る場合にその理由は何か、ということテーマに5人の英国現代作家の小説13冊よりデータを集め調査した。

調査より二つの比較形式の用法に個人差の見られた形容詞、及び1個人内で fluctuation の見られた形容詞には28個あった。論文の第二章では、各作家に於ける fluctuation を起した形容詞の割合を、また第三章ではこれら28個の形容詞の全ての例を、統語論的、文体論的に検討した。その結果、ほとんどの例については解釈が出来たが、いずれと断言出来ないものもあった。

このテーマと関連して、二つの比較形式間の選択を決定する要因は何か、ということもまた重要な問題であった。その反面は第三章で、そして第二章では、形態面より述べ、現代英語をより深く理解する為に、17世紀と18世紀の英語も調査し、用法の時代的差異を参考にした。

fluctuation の原因を全て考察するには、データが少なかった。今後更に多くのデータを集め再検討の必要があろう。

(文責本人)

## 語形成の研究

### —— 英語の複合名詞について ——

神 笠 公 伯

Jespersen を中心にして複合語とは一体何であるか、又複合語の中でも最も問題が多く歴史的にも古い複合名詞には、どんな種類があり、句との境界線をどこに求めるか等を主題とし、主として Marchand のものと比較検討しながら述べていく。

第一章では「語形成とは何か」を論じ、第二章で(1)音声的に、(2)形態的に、(3)意味的に「複合語とは何か」を論ずる。第三章で「複合名詞の結合形式」を(1)形態的に、(2)機能的に見る。

複合語の基準として常にあげられるものは① Meaning ② Stress ③ Spelling の3つである。Marchand は Stress を最重要視し、Jespersen は歴史的・伝統的立場から意味の特殊性を重要視する。しかしながら、結局Jespersen を支持するにしても、Zandvoort の言う様に「どの様な語結合を Compound と見なすかは、大いに話者、筆者の意図にも依るし、聞き手、読者の言語感覚にも依る」ということに落着く。この意味からしても、今後研究すべき多大の問題点が潜在していると思う。

#### 参考文献

- Bloomfield, L. Language, 勇 康雄訳 英語学ライブラリー(39)  
Bradley, H. The Making of English  
五 島 忠 久 教と性、英文法ライブラリー(7)  
Jespersen, O. A Modern English Grammar on Historical Principles Vol. II, VI  
" Analytic Syntax  
" Essentials of English Grammar  
高 津 春 繁 印歐語比較文法、岩波全書